

2023年8月17日開催

COVID-19 感染拡大下における飲酒行動の推移と関連因子
菅谷 渚(労働安全衛生総合研究所 産業保健研究グループ)

【目的】

本研究では長期化する COVID-19 パンデミック下における飲酒関連問題の推移と心理社会的要因の関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】

日本で COVID-19 感染拡大によって発令された 1 回目の緊急事態宣言から約 1 年後の 2021 年 6 月 15～20 日 (Phase 1、3 回目の同宣言発令期間)、さらに約 1 年後の 2022 年 5 月 13～30 日 (Phase 2、感染拡大下であるが同宣言の発令なし) の 2 つの期間中にオンライン調査を行った。飲酒関連問題を把握する AUDIT は最近 1 年間の状況を尋ねるものであるため、1 回目の同宣言発令から約 1 年経過した Phase 1 とそこから 1 年後の Phase 2 は調査のタイミングとして適切と判断した。Phase 1 と 2 両方の調査にて回答した 20 歳以上の対象者 9614 名 (女性 46%、50.0±13.1 歳) のデータを解析した。対象者は飲酒習慣の調査票である AUDIT により「飲酒問題なし (8 点未満)」、「危険な飲酒 (8～14 点)」、「アルコール依存症疑い (15 点以上)」に分類された。

【結果】

「危険な飲酒」および「アルコール依存症疑い」に分類された割合は Phase 1 でそれぞれ 10.9% と 7.1%、Phase 2 でそれぞれ 11.8% と 7.3% であった。Phase 1 にて危険な飲酒およびアルコール依存症疑いに分類された対象者のうち半数程度は Phase 2 にて他のグループに分類されていた (Figure 1)。

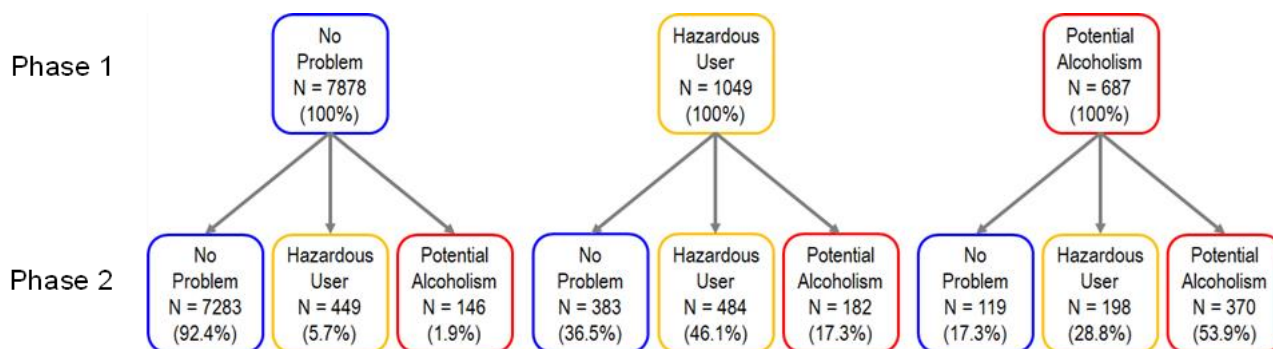


Figure 1 1年間での飲酒関連問題の推移

いずれの Phase でも男性、50～54歳の年齢層、労働者、世帯年収が高い層、既婚者や子どものいる人で飲酒関連問題を持つ人が多くみられた。

三要因分散分析 (Phase 1 の AUDIT 3 群×Phase 2 の AUDIT 3 群×Phase) の結果、心理的苦痛 (K6 により測定)、身近な人とのオフラインでの交流、仕事や学業の困難において有意な交互作用があった。心理的苦痛については (Figure 2)、Phase 1 で飲酒の問題がなかった人のうち、Phase 2 でアルコール依存症疑いとなったグループは、各時期で深刻な心理的苦痛を示し、また 2 つの時期の間で心理的苦痛が有意に増大した。Phase 1 で危険な飲酒を伴った人のうち、Phase 2 で飲酒問題がなくなった群は、心理的苦痛が有意に減少し、さらに、2 つの時期を通じて危険な飲酒を維持した群は、改善 or 悪化したグループよりも心理的苦痛が低く、Phase 2 で依存症疑いとなった人は、二つの時期で強い心理的苦痛を維持した。Phase 1 で依存症疑いであった人のうち、Phase 2 で飲酒問題なしとなった群は Phase 1 で他のグループと比較して最も高い心理的苦痛を示した。また、アルコール依存症疑いの状態を維持している人は 2 つの時期の間に心理的苦痛が上昇した。身近な人とのオフラインでの交流については、全体的に 2 つの時期の間で増加する傾向にあったが、飲酒関連の問題が悪化した、あるいは問題が残ったグループにおいては、特に顕著であった。仕事や学業の困難については、Phase 1 で飲酒関連の問題がなかった人において、Phase 2 で依存症疑いとなった群は、いずれの時期でも他の群よりも仕事や学業に対する困難が深刻で、2 つの時期の間にそれが悪化した。

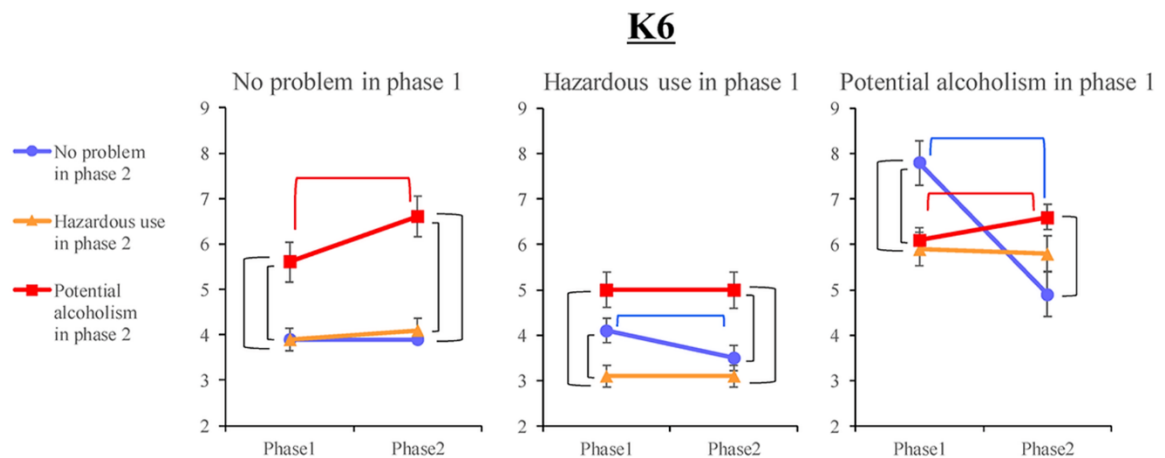


Figure 2 心理的苦痛 (K6) における群 (AUDIT) と時期の交互作用

多項ロジスティック回帰分析の結果、1年後 (Phase 2) の危険な飲酒の予測因子 (Phase 1) は、男性、未婚、高世帯収入、高年齢、社会的ネットワークの拡大、感染予防行動の減少であった。1年後のアルコール依存症疑いの予測因子は男性であること、重度の不安、社会的ネットワークの拡大、運動の増加、経済状態の悪化、生活必需品の不足による困難、不健康な食習慣、感染予防行動の減少であった。

【結論】

COVID-19 パンデミック下において、心理的苦痛や不安などの精神的健康問題、仕事・学業や経済

的困難、健康行動の低下が1年後の飲酒関連問題を予測することが示唆された。一方、心身の健康にポジティブな影響を与えるとされてきた変数が飲酒関連問題と関連していたなど、今回のデータのみでは解釈の難しい結果もあり、今後は大規模なデータであることを生かして、詳細に分析することが課題となった。

【文献】

Nagisa Sugaya, Tetsuya Yamamoto, Naho Suzuki, Chigusa Uchiyumi. Change in Alcohol Use during the Prolonged COVID-19 Pandemic and Its Psychosocial Factors: A One-Year Longitudinal Study in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 20(5), 3871, 2023.